

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.7〉

<恩田① 特徴>

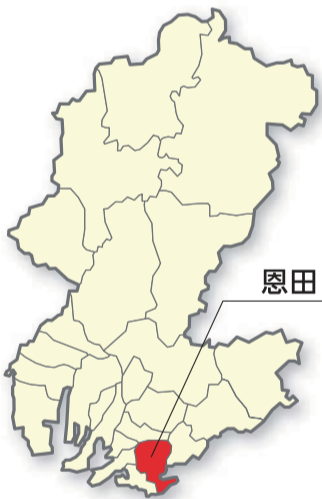
恩田地区は、宇部市そして県の空の玄関口となる山口宇部空港やJR宇部線の草江駅があり、主要幹線の国道190号も走るなど交通の便に優れている。空港ふれあい公園、恩田運動公園など市街地には公園が多く、買い物拠点も点在するなど、市内でも屈指の住みやすさを誇る。

由来は常盤湖築造、土木開発の原点



空の玄関口・山口宇部空港

殿様の「御田」転化か



恩田の歴史は常盤湖の築造から始まる。それ以前は笹山、草江、野原などの地名が残る通り、未開発の荒れた台地が広がっていた。江戸時代初期、宇部領主の福原広俊が萩藩に築造の許可願いを出し、1698年に本土手が完成した。

- 人口1万2469人（3位）
（男性6092人、女性6377人）
- 高齢化率32.66%
- 小学校児童数712人
※世帯数などは2022年4月1日現在

基本データ

- 面積 4.13平方キロ
（17位）
- 世帯数6155世帯

則貞、草江、笹山などの約3平方キロを潤せるようになると、地区の人口は急速に増加していった。網の目のように張り巡らされた用水路の点検路は

生活道として今も残る。地域の歴史に詳しい常盤湖本土手保存有志の会の上田純二さんは「宇部の土木開発の原点は恩田地区と言っても過言ではない」と話す。

地区内に寺が無いことも特徴の一つ。上宇部、琴芝地区から移り住んだ人が多く、昔からある上宇部の教念寺、松月院などの門徒のまま移住したからではないかと推察される。

「ふるさと恩田」によると、恩田の由来は常盤湖にちなむ説が有力。領主の命による築造で開田できたということから、殿様から頂いた田「御田」が転化した説、殿様の恩恵を忘れないように「恩田」となった説がある。また、築造前は湿地が多かったことから、湿地の意の陰地（おんち）が転化した、年貢を取られないように隠し持った隠田（おんだ）が転化したという説もあり、真偽ははっきりしない。

地区住民が住みやすさに挙げる理由の一つが、恩田運動公園、空港ふれあい公園の存在。子育て世代から高齢者まで幅広い層がウォーキングやジョギングで利用し、遊具を楽しんでいる。空港ふれあい公園には、来春にインクルーシブ大型遊具も設置される予定で、地域づくり協議会の真宅宣昭会長（64）は「県内外から多くの人が集まり、交流人口も増えるだろう」と期待する。